想いを紡ぎ、繋ぐ

中村 亮太

自分の活動が実を結ぶかわからない、それでも一つだけでも現地の人たちに残ることを、そして彼らが大人になった際に子供達に受け継がれることを祈って活動を続けている。限られた時間の中で工夫をしできる限りの成果を残す。どこか儚いようで堅実な活動の根本には、想いをつなぐ、そんな人としての強さをひしひしと感じることができた。想いを紡ぎ、繋ぐ。これこそがこの研修で認識した人の強さそのものである。

フィリピン研修では、ストリートチルドレンへの教育プロジェクト、治水事業、防災活動など様々な事業を見学した。自分の受けた優しさや教育を下の代の子供達に根気強く伝え続ける元ストリートチルドレンの方の姿や、20 年・30 年に一度来る大災害に向けて何十年もかけて出来る限り多くの人が気にいる未来を創り上げていく治水事業関係者の方の姿、そして、自分の任期満了までに当初の目標の達成が困難であることを察しながらも根気強く災害の危険や防災方法を伝え続ける協力隊員の方の姿を目の当たりにした。意志や想いが膨大な時間に押しつぶされないように、限られた任期・人生の中でできる限り自分の想いや夢を紡ぎ、そして前任の方の想いを繋いでいく姿は、人そのものが持つ強さを感じることができた。

想いを紡ぎ、繋ぐ。協力隊の方々やフィリピンの方々が想いや夢を受け継いできたように、私も夢を紡ぎ、研修で出会った方々の意志を繋いでいきたい。